

## 令和5年度 第1回京都府中丹地域戦略会議開催結果（概要版）

- 1 日時 令和5年8月21日（月） 13時35分～15時13分
- 2 場所 京都府綾部総合庁舎 第1会議室
- 3 出席者 【委員】出席11名（欠席1名）  
【オブザーバ】各市企画担当課長等  
【中丹振興局】高屋局長、白波瀬副局長、井関地域連携・振興部長、  
廣畑健康福祉部長、岡田農林商工部長、細井建設部長、  
吉岡港湾局港湾企画課長

### 4 主な意見等

#### 《UIターン等により若者等が暮らし続けたいとなる環境整備》

- ・現状把握のために各市が持っているデータと小中高校の教育機関の持っているデータをうまく活用すべき。
- ・UIJターンの促進は各3市でも行っているため、府はUIJターンをした方の環境整備を行うなど3市と役割分担をしながら進めるべき。
- ・局では幅広い事業をしているが、それぞれの事業の性格に沿ってターゲットを絞り、そのターゲットごとに発信ツール（チラシ、HP、SNS等）を考えて届ける工夫が必要。
- ・地域の魅力についても年齢層によって発信内容は変わってくる。例えば、子育て世帯であれば教育や食育など、ここにしかない魅力をPRしてはどうか。
- ・移住希望者の掘り起こしについては、農家民宿を活用して移住相談ができる仕組みを作ってはどうか。農家民宿のオーナーはIターンした方が多く、実体験に応じたアドバイスができる上に、市の移住相談窓口に行くのはハードルが高いという方には気軽に相談できるのではないかと。
- ・若者が地域外に出ないようにするのであれば、農業・漁業・林業を教える府立高校のクラス数を増やすべき。人気がないから減らすのではなく、工業高校を選んでもらえるよう小中学校の教育からさかのぼった対策やキャリア教育を行うなど、どうしたら学生が増えるかを考えるなど、若者が出ていかないよう府教育委員会との連携が必要。
- ・大学生に中丹地域に残ってもらうには、大学生活が不便だと感じない環境づくりが必要。一番の問題はモビリティのため、自分の行きたいところへ行けるよう、ライドシェアの導入など検討してはどうか。
- ・福知山公立大学があるという点を最大限に活用してほしい。留学生の門戸を積極的に開いて受け入れ、福知山や中丹を好きになり住んでもらうという循環を作り出す取組も必要。

#### 《人権が尊重され子育てに優しく安心して暮らせる環境整備》

- ・地域に魅力を感じて移住された方に対し、孤独を感じずにいかに安心して生活できるよう支援していけるかが重要。
- ・地域在住の外国人が中丹管内に住み、子育てをするには、貧困や在留資格のことなどは福祉施策として解決すべき喫緊の課題。
- ・「安心・温もり・ゆめ実現」を目標に掲げているが、施策の検討に当たっては、高齢者、障がい者、外国人にも参画してもらえるよう地域課題の見える化を進めるべき。

## 《地域産業の振興と雇用の促進、人材育成》

- 単に担い手を増やすというだけでなく、地域の担い手不足問題や食料問題について将来のビジョンを発信したほうが良い。
- 農業大学校や林業大学校はどこ県でもあると思うので、京都府の学校を選んでもらうために魅力をもう少し見えやすくした方がよい。
- 都市に無くて中丹地域にあるものは第1次産業。資源があるのが強みなので、もう少し地域の特色を生かす取組があればいいと思う。
- 中丹地域の企業と連携して、Uターン者の雇用枠を設けたり、空家を活用することで家賃補助をするなど分かりやすい施策を打ち出してはどうか。
- 港湾事業者や工業団地で働く方が田舎に住んでみたいという地域の魅力づくりが必要で、魅力づくりに向けた取組に対し、行政が支援するのが良い。
- 企業が人材確保のために独自にできることもあるので、行政では、第1次産業や集落へのUターンをいかに支援していくかが重要。